

## 中部国際空港

## 川上博代表取締役インタビュー



## 国際拠点空港として 地域の期待に応えたい

二〇〇五年二月十七日の開港から間もなく一〇周年をむかえる中部国際空港（セントレア）。同社では一〇周年を第二の開港と位置づけ、様々な取り組みを行っている。代表取締役社長の川上博氏に空港の現状と課題などにつき話を伺った。（聞き手／中部財界フォーラム社代表取締役塚本隆）

——二〇一五年二月十七日で開港一〇周年となります。

**川上** 調査会ができたのが一九八五年。その二〇年程前に、すでに空港構想があり、中部地区には本格的な国際拠点空港がいるという話がありました。そこから長い年月をかけ、国の認可も降りて、会社のできたのが九八年です。二〇〇〇年から着工しました。

開港は愛知万博開催の〇五年で、地元も大変な好景気に沸いて強い追い風を受けてスタートしました。〇七～〇八年なかばまでは順調に旅客数・就航便数を伸ばしてきましたが、残念ながらリーマ